

第 46 回中国・四国地区社会教育研究大会 徳島大会 参加報告

丸亀市社会教育委員

○アトラクション 徳島県立徳島商業高等学校 阿波踊り部のみなさん

昨年の島根の神楽もだが、高校生が部活として文化の継承をしておりプロ並みの演舞を見せていただき素晴らしいと感じた。香川県では、そんな香川独自の継承的文化が子ども達に引き継がれているのだろうか？と思う。

○基調講演 『偶発性をデザインする』

神山学園はメディアでも取り上げられ、注目されていた高校の成り立ちを聴けた。

「できない理由よりできる方法を！とにかく始めろ！」という概念で「やったらええんちゃう」というポジティブ思考で生み出されている。そういったアイデアの元、様々な展開がおきてくれば、世の中、変わってくるのではないかなと思わされた。ただ、全国からエキスパートと集客する特別なスタイルに、地域のこども達を取り残されてはいないのか・・・という懸念も感じた。

○パネルディスカッション 「誰もが輝く ウェルビーイングの社会を目指して」

地域をお花ガーデンにしたり、こどもたちと一緒に公園を作ったり、地域のいろんな人たちを巻き込み活動する NPO 法人あわ・みらい創生社の代表、過疎化の地域に帰り、居場所となるカフェをオープンし、価値がないと思っていたものに価値を見出す合同会社 RDND の代表、高校等に出向き、若者が地域で活躍しやすい環境づくりに尽力する中間支援団体の徳島市まちづくり協働プラザ事務局長の青年の三方のパネリストの発表。

パネリストの報告では、だいたいキーパーソンがいてパワーがあり突き進むイメージがある。思いがあり地域を愛し、つながりあって、地域を変えていく様は、いつも凄い！と感じさせられる。その人の次に繋がる人育ても必要だよなということもいつも思ってしまう。コーディネーターの阪根先生のコメントで「ひとづくりつながりづくり」のコツとして、人のマッチング、人の集まる場、課題解決するために人が人を呼ぶことを言われた。課題をどのように誰と解決できるかという点は、チームとして動く時は重要だと合点した。また、対話と体験が大切で、「社会教育は一步前へ！共感する体験を創ること、学ぶこと」というメッセージもあり、社会教育がウェルビーイングに繋がるものと受け止められた。

○第 3 分科会 家庭教育支援

親子の関係性を深める「親学プログラム」の実践事例と過疎地におけるこどもの居場所づくりの実践事例の内容。

親子関係形成プログラムは、様々なプログラムがあるが、今回の実践者は、とても楽しく明るく元気に取り組まれているのが印象的であった。また、行政が橋渡しすることで、活動が広まっており、行政と一緒に課題共有し、協働していく形の良い事例。

子どもの居場所づくりは、学生時代の NPO 活動などの経験があったからこそ過疎地の故郷に戻り、地域に無いもの、地域の課題に目をむけ活動に取り組まれている若者が主体でがんばっておられ地域の宝だと思った。ただ、財源の不安定さもあり、行政との連携に繋げていくことも必要であると感じた。

親支援及び子ども支援の視点は、私どもの活動にも直結しており、こども・子育て家庭応援の取り組みと重なる点が多くあり大変共感できたが、私自身、社会教育や家庭教育という場に関わっているが、「社会教育」とか「家庭教育」とか「教育」に縛られることは、実は余り好まないのが正直なところである。